

豊川小学校区

豊川小学校区 ワークショップ実施概要

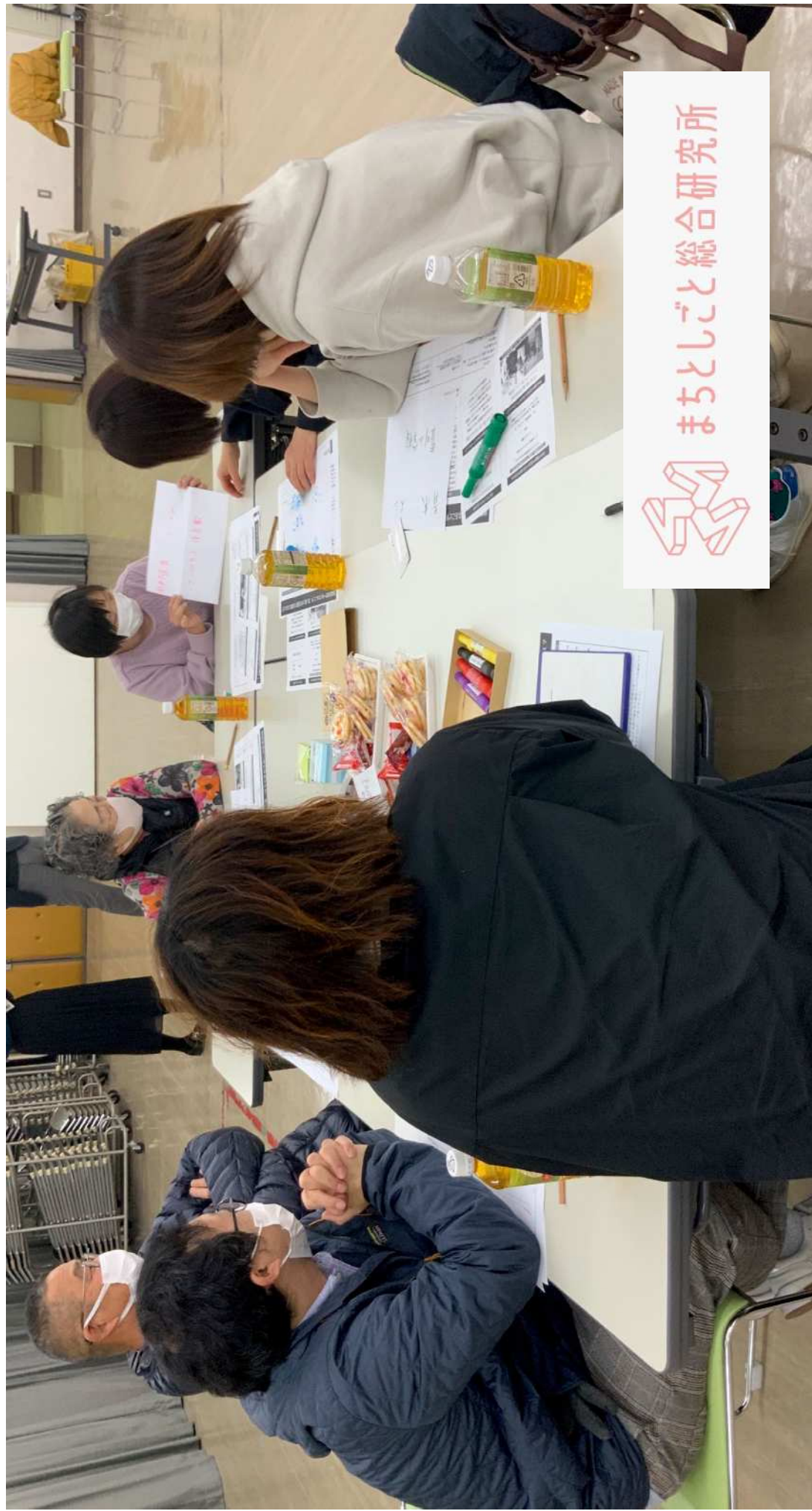
テーマ	豊川地区まちづくりワークショップ～みんなで集まってまちの未来を考える～	
実施内容	第1回	2021年10月23日(土) 18:00-20:00
		「豊川地区の論点を考えるワークショップ」
	第2回	2021年11月13日(土) 18:00-20:00
		「今後の豊川地区の論点を深めるワークショップ」
	第3回	2021年12月11日(土) 18:00-20:00
		「今後豊川地区でしてみたい取り組みを考えるワークショップ」
結果概要	<p>○豊川地区の論点を考えるワークショップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊川地区の魅力と課題を現状と未来から考えるワークショップを実施した。 ・現状の課題として、新旧住民との一体感やつながりの希薄化、それを支える自治組織の運営課題、地域の自然や農業などの魅力を活かすことや、子ども・高齢者の暮らしに関する課題などが共有された。 <p>○今後の豊川地区の論点を深めるワークショップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回ワークショップで抽出した意見から4つのテーマを提示し、それぞれ話したいテーマを選んで意見交換を実施した。 ・前回のテーマからさらに議論が行われ、どんな現状があるのか、その課題はなぜ起きるのか、何が課題なのか、という点が議論された。 <p>○今後豊川地区でしてみたい取り組みを考えるワークショップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマをもとに企画や事業の案をつくる対話を行った。 ・それぞれのグループで以下のような企画が生まれた。①水をテーマにした農業技術継承や特産品販売の場づくり、②農作物を子どもが育て収穫したものを活用した季節行事の開催、③乗合タクシーで買い物に行くツアーイベントの開催、④地域組織のホームページやLINEによる情報発信と小学生の地域探検の内容発信。 	
来年度以降に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・自由な意見交換、立場を超えて集う対話の地域への落とし込みや、アイデアを行動計画へつなげていく対話を、継続的に実施していくことが望ましい。 ・新地区、旧地区との関係など、地域がひとつとなるような仕掛けを検討。従来の行事のあり方や内容を変更するなど、必ずしも新規事業でなくても効果を発揮することはできる。地域の体力と相談の上で無理のない形の模索が重要。 ・若い世代へ情報を届けるために、情報発信の仕組み（ホームページやLINEなど）は重要な視点。小学校の授業と連携することで子どもの目線からの地域を発信していくなどの仕組みづくり。 ・地域資源である自然・農業やその関係者との連携を深めることが地域行事や事業の豊かさにつながっていくことを多くのワーク参加者が感じている。地域自治組織による連携事業として地域行事と連動した特産品販売の場づくりや、農作物を育てることを子どもと体験する取り組みなどにチャレンジしてみる。 	

【WSの様子：写真】



豊川地区まちづくりワークショップ

～みんなが集まってまちの未来を考える～



全3回のワークショップの内容

令和3年10月23日（土）
18:00～20:00

■豊川地区の魅力と課題を考えるワークショップ
豊川地区で地域活動をされている皆さんが感じる豊川の魅力や、地域の課題について話し合います。

令和3年11月13日（土）
18:00～20:00

■豊川地区の論点を深めるワークショップ
第1回で話し合われた意見をもとに、テーマごとに分かれてより論点を深めていきます。

令和3年12月11日（土）
18:00～20:00

■今後豊川地区でしてみたい取り組みを考えるワークショップ
第1・2回の話し合いをもとに、実際にどんな取り組みをしているのか。今後に向けての具体的なアイデアを出し合います。

第1回：豊川地区の魅力と課題を考えるワークショップ
まちの「現在」「未来」のキーワードを考える

豊川地区のまちの
いいところ

現状

豊川地区のまちで
気になること

豊川地区がもっと
こうなってほしい

未来

豊川地区が
こうなったら
嫌だな・・・

第1回：豊川地区の魅力と課題を考えるワークショップ まちの「現在」「未来」のキーワードを考える

	A	B	C	D
現在 ○	<ul style="list-style-type: none"> ・人が親切、やさしい（よい意味でおせっかい、人情、責任感） ・自然豊か（川、田んぼ、のどかな風景、サギが羽を休める風景） ・歴史がある（西国街道、榎の本陣、川端康成） ・高齢者や障がいを持つ方の居場所がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・人のつながり（おおらか、協力的） ・相談できる（相談窓口が多い、集会所が多い） ・自然が豊か（緑が多い、夜は静か） ・見守り体制がある（民生委員が震災時に活躍） ・子どもの感受性が豊か 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然が豊か（勝尾寺川、田んぼが多い、山林の季節感がある） ・近所つきあい（みんな知り合い、他人に親切、安全で平和） ・歴史がある（西国街道、榎の本陣、川端康成） 	<ul style="list-style-type: none"> ・人のつながりがある（人を助ける気持ち、親身になってくれる） ・自然が豊か（様々な動物をみる、山や緑が多い） ・車さえあれば買い物、アクセスは便利 ・相談できる場所が多い（愛センター、ふわふわのおうち、コミセン、消防団） ・豊川小学校は手厚く教えてくれる
未来 ○	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが増えていくまち（子どもの居場所、地域への愛着） ・高齢者が元気なまち（高齢者の居場所） ・買い物、交通の利便性があるまち（買い物支援、巡回バス） ・若手世代の活躍が進むまち（18歳以上の参加、自治への参加） ・自然を大切にするまち（自然とふれあうイベント） 	<ul style="list-style-type: none"> ・関わりの深いまち（優しい、あいさつ、思いやり、お互い様） ・お年寄りが死ぬまで暮らせるまち（買い物などの利便性、循環バスなどの交通手段） ・子どもがのびのび遊んでいるまち（学校で子どもがのびのびできる、遊べる場所が増える） ・各世代が活躍できるまち（役員をしたらおもしろい、若手のリーダーが育っている、門戸を開く） 	<ul style="list-style-type: none"> ・新旧地域の一体感や相互理解があるまち（地区全体がまとまると、お互いをもっと理解する、勝尾寺川を通じた交流） ・子どもが多いまちになって、みんなでイベントがしたい ・まちづくり協議会に新地域も旧地域ももっと参画、関与して欲しい→共通の目標をつくっていききたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・多世代がバランスよく共存するまち ・子育て世代が集まるまち ・福祉バスが走り、病院に行きやすいまち
現在 ×	<ul style="list-style-type: none"> ・川に入れなくなった（生活排水、農業など） ・少子・高齢化（子どもの数が減っている、独居老人の問題） ・買い物、移動が不便（商店が少なく、市役所が遠い） ・地域のつながりが薄れている ・自治の運営に課題がある（役員のなり手不足、役員任せ） ・コロナによる自治への影響（行事の中止、会議の減少） 	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物、通院が不便（車がないと移動が不便） ・自治運営が困難に（担い手の固定化、加入率の減少） ・行事のマンネリ化（求められるものへの変化） ・子育ての悩み（子育て世帯が忙しい、地域内で働く場がない） ・子どもの場（放課後に遊ぶ場がない、駄菓子屋がない） ・30～50代の活躍の話が不足している 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の生活の不安（高齢者の1人暮らし、買い物） ・関係性が希薄になっている（旧地域と新地域のつながり、旧地域とマンションとのつながり、顔見知りから一歩踏み込む関係性） ・地域が一体となる祭りなどの行事がない ・まちの生活環境の問題（川や道が汚い、暗い、空き地、歩道がない） 	<ul style="list-style-type: none"> ・逆に車がなければ不便が多い（バスの本数が少ない、道が狭い） ・子育て世代が少ない（子どもの習い事の増加、子ども会が解散している） ・つながれていない人たちがもいる（軽く参加できる仕組みが無い） ・自治会員の減少（ゆるやかな世代交代ができていない、中間の世代が少ない）
未来 ×	<ul style="list-style-type: none"> ・人口が減っていく（子どもが減る、空き家が増える） ・関わりが減る（人のつながりが減る、集まりが減る、役員が減る） ・まちづくりへの意欲が減る（新しい取り組みに反対する、自己中心） ・安心して暮らせる環境では無くなる 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係性が希薄（つながりがないまち、住民がますます減っていく、となり同士の嫌な感情だけが残るのではないが、連帯感と愛着を失う） ・活動の衰退（いろいろな会議に出席する人は同じ、古い慣習が残って新しいものが入ってこない、空き家が増える、ゴーストタウン） 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係性が希薄（つながりがないまち、住民がますます減っていく、となり同士の嫌な感情だけが残るのではないが、連帯感と愛着を失う） ・活動の衰退（いろいろな会議に出席する人は同じ、古い慣習が残って新しいものが入ってこない、空き家が増える、ゴーストタウン） 	<ul style="list-style-type: none"> ・治安が悪い ・空き家が多い ・過疎化していく ・山が近いため災害が増える

第1回：豊川地区の魅力と課題を考えるワークショップ まちの「現在」「未来」のキーワードを考える

豊川地区のいいところ

- **ご近所付き合いがある**
(人情がある、協力的な方が多い)
- **自然が豊か**
(昔は川に入って遊べた、田畑が豊か、季節感がある)
- **歴史的な魅力がある**
(樺の本陣、西国街道、川端康成など)
- **相談できる場所が多くて安心**
(愛センター、ふわふわのおうち、コミセンなど)

- **地域全体としての一体感に課題がある**
(新旧住民のつながり、地域一体となる祭りや行事のあり方)
- **自然とどのように付き合っていくのか**
(田畑や自然とふれあう機会を増やす、災害への対応)
- **これからの自治運営のあり方改善**
(加入率、担い手の固定化、若い世代の参加や仕組み)
- **高齢者が抱える不安**
(高齢者の孤独化、車が無いと不便、商店が少ない)
- **子どもが健やかに育つ環境**
(子ども会の解散、遊び場や居場所が少ない、駄菓子屋)

豊川地区がこうなってほしい

- **人とのつながりを大事にするまち**
(関わりが深い、あいさつができる関係を生み出す)
- **自然を感じながら過ごせるまち**
(自然に触れ合う機会がある)
- **若い世代の活躍が増えるまち**
(30～50代が活躍する、気軽に参加できる仕組みがある)
- **高齢者が元気に過ごせるまち**
(年齢を重ねても暮らしやすい)
- **子どもが元気に過ごせるまち**
(居場所や遊び場が豊富、地域への愛着を持ってくれる)

- **人との関係性の希薄化**
(つながりが無い、連帯感がない、愛着がない、他人事になる)
- **まちをよくする活動が衰退している**
(役員・会議の参加者が固定化、新しい取り組みに反対する)
- **安心して暮らせない環境になる**
(治安の悪化、空き家の増加)

豊川地区の気になるところ

豊川地区がこうなったら嫌だ

第2回：豊川地区の論点を深めるワークショップ 第1回ワークショップから抽出した4つのテーマ

①	地域全体が一体となることや、若い担い手が活躍する環境になるには？
②	豊川の魅力的な自然環境を、未来につなげていくためには？
③	年齢を重ねても（その他の困り）豊かに豊川で暮らしていくためには？
④	子どもに様々な機会があり、次世代が健やかに育つためには？

4つのテーマを前回と同じグループごとに選択し、以下の観点で議論を深めました。

- ① **【課題と現状】**（前回の意見も踏まえて）どんな課題や現状があるのか。
- ② **【課題の原因】** その課題はなぜ起きるのか。
- ③ **【解決策】** 解決するためにどんな取り組み（しかけ）が考えられるか。

第2回：豊川地区の論点を深めるワークショップ

各グループの選択テーマとご意見

	地域全体が一体となることや、若い担い手が活躍する環境になるには？	子どもに様々な機会があり、次世代が健やかに育つためには？	年齢を重ねても豊かに豊かに暮らしていくためには？	地域全体が一体となることや、若い担い手が活躍する環境になるには？	
課題	<p>コロナで行事が減少している</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナでイベントが少なくなかった ・盆踊りや豊フエスが中止になった ・地域の運動会中止になった ・村祭りも難しくなっている ・祭りで食べ歩きができない <p>若い世代が減少している</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若い世代が地域外に住む ・子供の数が少ない ・地域内に仕事がない ・高齢世帯が増加している <p>一体的になりにくい地形環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域が細長く、端から端が遠い ・他の地域の様子が変わりにくい ・集落の距離が離れている ・地域ごとに課題や専任職が違う <p>自治会の運営が困難（地域による）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ人が何年も役員をしている ・役員の高齢化が進んでいる ・次の役員が中々決まらない ・活動が役員に集中している <p>地域の産業の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業の担い手がいらない ・農業を訓練できる施設がない ・道の駅のような販売場がない 	<p>若い世代との交流が少ない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あひまっをやる関係性が無くなった ・子供の数の減少 ・大學生、高校生の交流 ・中學生と地域の関わりの減少 <p>多世代交流が少ない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供と大人の交流ができる場 ・楽しく過ごす大人の存在が見えない ・レクリエーションが地区ごと開催 <p>子どもに様々な機会をつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活躍の場や体験の場が少ない ・子どもが自分で企画運営ができるチャンスがない ・魚釣り体験ができるような場がない ・お祭りが無くなって体験できない <p>子どもかひのび遊べる環境がない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊学路の整備 ・地域の見守りを活発に ・安全な遊び場がもっと必要 ・ボール遊びができる広場や公園 <p>地域への愛着を育む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の歴史を知る ・古地図のままの道をたどる <p>子どものライフスタイルの変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・買い物などで自由な時間が少ない ・子供たちの外での交流が少ない 	<p>高齢者のケアを家族でやりきることが難しい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが速くに住んでいて関係が悪いケース ・夫婦の仲が深まらないケース ・施設に入らず子どもも面倒をみない ・認知症の方が増えている、家族の介護負担が大きい <p>居場所へのアクセスの問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティまでいけない ・歩いていける場所に介護予防教室がない ・高齢者が集まる場所がない ・小さい居場所でも近くにあって欲しい ・居場所が必要な人が居場所に来れない <p>暮らしのアクセスの問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者にとって買い物や通院時の交通が不便 ・国道まで出ればなんとかなるが、バスが4・5本 ・買い物に行く時間とバスが合わない ・とくし丸 <p>現役世代から高齢者へ移る際の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康不安 ・現役時代から抜かれていく意識 ・会社で仕事をしていく気持ちがない 	<p>住む場所が少ない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住める場所 ・地元に住んでもらう <p>若い世代が地域活動に参加する経路がない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青年団の育成が必要ではないか ・地域活動に参加するメリットがわかりにくい ・マンションの人が自治会に参加しない ・日々の生活で活動できる余裕がない <p>地域活動が見えにくいので参加しにくい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治会活動の内容がわかりにくい ・自治会の活動量がわかりにくい <p>地域での交流が不足している</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知り合いが少ない ・コロナで祭り、交流がない ・人が集う場がない（おふる、スーパ、病院） 	<p>地域全体が一体となることや、若い担い手が活躍する環境になるには？</p>
原因	<p>行事の減少</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響 <p>若い世代が減少している</p> <ul style="list-style-type: none"> ・核家族化が進み、子育てで一杯な若い世代が多い ・地域や近隣の付き合いが「煩わしい」と感じる人の増加 ・定年輪もあがり、仕事をしているの子どもをサポートができない ・旧世代でできていない ・旧コミュニティに新しい方が参加しにくいような雰囲気がある ・若い世代の声を反映しにくい <p>自治会の運営が困難（地域による）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定年輪もあがり、仕事をしているので、地域活動に参画できない ・若い人が役員をできる任期になっていない ・次世代への継承への仕組みがない <p>地域が一体になりにくい地形環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域が細長く、端から端が遠い ・集落の距離が離れている <p>地域の産業の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業を訓練できる施設がない ・道の駅のような販売場がない 	<p>つながりが薄く交流体験が少ない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つながりや交流が減った ・知らない人を警戒する風潮 ・コミュニケーション不足 <p>人との関係性を体験する機会が少ない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人主義やプライバシーの尊重 ・地域の世話焼きな方が減った ・「お互い様」の気持ちが薄れている ・多世代交流の機会が少ない ・核家族化で高齢者に会う機会が少ない <p>自治参加する気持ちがない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・責任を取りたくない風潮 ・役員が同じでなり手が少ない ・期待を寄せがちになっていない ・お金を第一に考える世代 <p>地域で汗をかきたくて活動していない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・忙しすぎて人に興味がない ・知っている大人が減った ・文化を伝える人が減った ・親世代が年配の話を聞かない 	<p>家族の状況が安定しない人のために行動しにくい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭が安定しないとまづくりには行けない ・単身で年配の世帯が増えている <p>高齢者に情報が届いていない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の取り組みを知らない ・医療や福祉に関する情報を知らない <p>居場所がマンネリ化してしまう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いつもの仲間ばかりになってしまふ ・集う場所が来れない雰囲気がある <p>生活エリアに居場所がない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多世代交流センターがない ・空き施設が活用できないか <p>人と会う、話す機会をつくりにくい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ期で会えない ・誰かと楽しく話したいが、話をする相手が見つからない ・坂道で友人の家にいけない ・話がしたくてもプラバシ一もありできない <p>高齢者になる準備準備、多世代交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現役世代から年齢を重ねることに備える ・生活習慣としての教育、シニア前教育 ・お年寄りのことを見ない 	<p>若者との繋がり、若者を知る機会がない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若者の地域離れ ・若い人がどんなことに魅力を感じているのかわからない ・結婚していない人は自治会に入りにくいのではない ・結婚できるチャンスやお金がないのではない <p>そもそも若い世代の暮らしが厳しい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の生活で一杯一杯になっていく ・家へ仕事で帰ってきて暇に暇にない時間が多い ・市営住宅の家賃変動 <p>若い世代が参加しにくい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つながりの大切さが伝わっていない ・参加できないことが多く行かなくなる ・マンション住民は転居するイメージがあるので誘っていない ・マンションのオーナーがポストにいかせてくれない ・周りに入っていない人が多いと入りにくい ・集う場所がないので、顔を合わせることが少ない <p>若い世代に情報が届いていない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・掲示板でのお知らせが多いが、若い世代はネットではないか ・車で生活している人は掲示板を読むことができない 	
問題					

地域全体が一体となることや、若い担い手が活躍する環境になるには？

どんな課題や現状があるのか	その課題はなぜ起きるのか／何が問題なのか	課題と原因を解決するためにどんなしなかけが考えられる
<p>行事の減少</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で地域行事（盆踊り、豊フェス、地区運動会）が中止となった ・村祭りも実施が困難 ・祭りで食べ歩きができない 	<p>・コロナの影響</p>	<p>コロナ対応をとりながらの行事再開</p>
<p>若い世代の減少</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若い世代が地域外に居住する ・子どもの数が少ない ・地域内に仕事がない ・高齢世帯の増加 	<p>・若い世代が地域に関わる余裕がない</p> <p>・核家族化が進み、子育てで精一杯な若い世代が多い</p> <p>・地域や近隣の付き合いが「煩わしい」と感じる人の増加</p> <p>・定年年齢もあがり、仕事をしているので、子どものサポートができない</p> <p>・世代交代できていない</p> <p>・旧コミュニティに新しい方が参加しにくいような雰囲気がある</p> <p>・若い世代の声が反映しにくい</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・世代を超えた交流の場を作り継承していく仕組みづくり（子育てイベント、子育てカフェ） ・新旧コミュニティの垣根をなくし、世代交代を行う ・仕事をしながらでも、老若男女問わず役員ができる仕組みづくり ・自治会や地域活動を継承できるマニユアルづくり
<p>自治会の運営が困難（地域にもよるが）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ人が何年も役員をしている ・役員の高齢化が進んでいる ・活動が役員に集中している ・次の役員がなかなか決まらない 	<p>・定年年齢もあがり、仕事をしているので、地域活動に参画できない</p> <p>・若い人が役員をできる仕組みになっていない</p> <p>・次世代への継承への仕組みがない</p>	
<p>一体的になりにくい地形環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の地域の様子がわかりにくい ・地域ごとに課題や優先順位が違う 	<p>・地域が細長く、端から端が遠い</p> <p>・集落の距離が離れている</p>	<p>・地域同士、住民どうしが繋がれることのメリットをもっと感じられる機会の創出</p>
<p>地域産業の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業の担い手がない ・農産物を気軽に販売できない 	<p>・農業を訓練できる施設がない</p> <p>・道の駅のような販売の場がない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・豊川産農産物 ・事業所と連携し、販売場所を創設

子どもに様々な機会があり、次世代が健やかに育つためには？

どんな課題や現状があるのか	その課題はなぜ起きるのか／何が問題なのか	課題と原因を解決するためにはどんなしかけが考えられる
<p>多世代交流が少ない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶をする関係性が無くなった ・子どもの数の減少 ・中高生と地域の関わり減少 ・子供と大人の交流できる場が少ない ・楽しく過ごす大人の存在が見えない ・レクリエーションを地区ごとに開催しており、交流がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・つながりが減り交流する機会が少ない ・知らない人を警戒する風潮 ・コミュニケーション不足 ・個人主義やプライバシーの尊重 ・地域の世話焼きををする人が少なくなった ・「お互い様」の気持ち薄れている ・多世代交流の機会が少ない ・核家族化で身近に高齢者がいない 	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の大学や高校に地域活動への協力依頼を行う ・地域の人がいつでもいける場所をつくる ・多世代交流や行事の創設 ・集いの場に、高齢者と子どもが一緒に過ごせる時間をつくる
<p>子どもに様々な機会がない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活躍の場や体験の場が少ない ・子どもが自分で企画運営できるチャンスがない ・魚釣り体験ができるような場がない ・お祭りが無くなって体験できない 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どものライフスタイルの変化 ・習い事などで余暇の時間が少ない ・子どもたちの外での交流が少ない <p>地域行事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で中止となっている ・マンネリ化している <p>遊び場の環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボール遊びができる広場や公園が少ない ・河川の遊び場が整備されていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが地域の課題を考える場（意見を聴いてみる場）をつくる ・子どもに遊びを教える（将棋、手芸）ための場所をつくる ・ジュニアリーダー、シニアリーダーの創設 ・川を美しく整備して遊歩道を作る ・街灯や防犯カメラの設置
<p>子どもがのびのび遊べる環境がない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通学路の整備 ・地域の見守り活動が活発でない ・安全な遊び場が必要 	<p>役員が同じでなり手が少ない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・責任をとりたくない ・損得で考えがちになっている ・お金を第一に考える世代 ・忙しすぎて興味がでない ・文化を伝える人が減った ・地域行事の成立ちや地域の歴史を知っている大人が減った ・親世代が年配の話を聞かない 	<ul style="list-style-type: none"> ・古地図のままの道をたどる地域を知るフィールドワーク ・地域全体での祭などの愛着をつくる新規事業の実施
<p>地域への愛着を育む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治参加する気持ち育っていない ・地域で汗をかく楽しさが伝わっていない ・地域の歴史を知る機会がない 	<p>役員が同じでなり手が少ない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・責任をとりたくない ・損得で考えがちになっている ・お金を第一に考える世代 ・忙しすぎて興味がでない ・文化を伝える人が減った ・地域行事の成立ちや地域の歴史を知っている大人が減った ・親世代が年配の話を聞かない 	<ul style="list-style-type: none"> ・古地図のままの道をたどる地域を知るフィールドワーク ・地域全体での祭などの愛着をつくる新規事業の実施

年齢を重ねても豊かに豊川で暮らしていくためには？

どんな課題や現状があるのか	その課題はなぜ起きるのか／何が問題なのか	課題と原因を解決するためにはどんなしかけが考えられる
<p>高齢者のケアの問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族が遠くに住んでいて面倒を見れない ・認知症の方が増えており、家族の介護負担が大きい ・高齢者が健康を維持するために集える場所がない ・老々介護 ・誰かと楽しく話をしたいが、話ができる相手が近くにいない 	<ul style="list-style-type: none"> ・シニア世代になる準備が出来ていない ・現役世代から意識が変わっていない ・子どもが豊川から出ていってしまい、面倒を見る人がいない ・コロナ禍で人と会えない ・医療や福祉に関する情報が、必要な人に届いていない ・核家族化によりお年寄りのことを見ていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康体操などのイベントを開催する（新しい人が参加しやすいように、これまでとは違うグループを作る。）
<p>アクセスや交通の問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者にとって買い物や通院時の交通が不便 ・コミセンまでいけない ・歩いて行ける場所に介護予防教室がない ・身近な集いの場がない ・居場所が必要な人が居場所まで来れない 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活エリアに必要な施設がない ・買い物に行く時間とバスが合わない ・バスの本数が少ない ・集落が点在している豊川の地域特性 	<ul style="list-style-type: none"> ・より身近な場所に、小さな集いの場を設ける ・とくし丸（移動スパー）をもっと利用しやすくする（時間や場所を見直す） ・会場までの送り迎えのバスを走らせる ・乗り合いタクシーを走らせる

地域全体が一体となることや、若い担い手が活躍する環境になるには？

どんな課題や現状があるのか	その課題はなぜ起きるのか／何が問題なのか	課題と原因を解決するためにはどんなしなかけが考えられる
<p>若い世代の地域活動への参加が少ない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マンション住民が自治会に入らない ・地域活動の若い担い手がいらない ・青年団に入る若い人がいない 	<p>日々の生活で手いっぱい、地域活動に参加する余裕がない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知り合いが少なく、地域活動に参加しにくい（参加するきっかけがない） ・地域活動に参加するメリットがよくわからない ・若い人がどんなことに魅力を感じるかを、運営側がわかっていない ・マンションのオーナーが地域活動に協力的でない ・結婚していない人は参加しにくい ・毎回参加できないといきづらくなる ・周りに入っていない人が多いと入りづらい ・つながりの大切さが伝わっていない ・どれくらい活動しているか（活動量）が分からない 	<ul style="list-style-type: none"> ・青年団を育成する ・若者が参加しやすいように現在の地域組織の活動を見直す ・自治会への加入促進を積極的に行う ・マンションオーナーと協議し、マンションへも自治会加入促進を行う ・単身世帯も参加したくなるイベントを考える ・新旧コミュニティの垣根をなくし、世代交代を行う ・仕事しながらでも、老若男女問わず役員ができる仕組みづくり ・自治会や地域活動を継承できるマニフェストづくり
<p>そもそも地域に若い世代が少ない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住む場所自体が少ない ・豊川で育った人が、外に出て行ってしまふ ・マンションの人がすぐに転居してしまう 	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化 ・市営住宅の家賃変動（収入が多ければ高くなる） ・都市への仕事の集中 ・病院、スーパーなどが少ない 	
<p>地域の交流が少ない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナで行事が無くなり、地域の交流がない ・人が集う場（お風呂、スーパーなど）がなく、顔を合わせる機会がない ・病院がない ・災害時に助け合える環境を作る必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響 ・集落が点在している豊川の地域特性 ・生活エリアに必要な施設がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の集いの場を創出する ・みんなが参加できるイベントを考える ・世代を超えた交流の場を作り継承していく仕組みづくり（子育てイベント、子育てカフェ）

第3回：今後豊川地区でしてみたい取り組みを考えるワークショップ 「もしも」まちづくり協議会 新規事業開発チームだったら…

イベントの実施や、仕組み、サービスを考えてみる

(例)

何のためにやるのか

子どもたちの地域愛着を高めるために

何に（だれに）向けて行うのか

〇〇児童館の子どもたちを対象に

どこでやるのか

△△さんの農園

いつ頃の実施が適切か

秋頃

誰と（どの団体）一緒にやれるといいのか

PTA、体育振興会、△△さん、JA

どんなことをするのか

稲刈り体験、終了後 地元〇〇を具材にした
おにぎりをつくって食べるイベントの開催

前回のグループでの話し合いテーマをもとに、イベントや仕組み、
サービスについて、より具体的な話し合いを行いました。

第3回：豊川地区の論点を深めるワークショップ 各グループの選択テーマとご意見

	地域全体が一体となることや、若い手が活躍する環境になるには？	子どもに様々な機会があり、次世代が健やかに育つためには？	年齢を重ねても豊かに豊川で暮らしていくためには？	地域全体が一体となることや、若い手が活躍する環境になるには？
何のため	<ul style="list-style-type: none"> 豊川地区の愛着を高め、新旧の交流（隣接の地域を含む）をより深めるような取り組みを行いたい。 地域と人のマッチングに取り組みたい。地域と人のマッチングは、「地域でこれややりたいを地域の場でつなげ地域の人を地域に留めておく手法」として取組みを行っていききたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域資源を活用し、次世代と多世代が交流することを通じて地域の魅力を伝えたい。 自然環境などを年間を通して活動できる学びの場、つなごりの場を創出していきたい。 徐々に共われつつある、地域の祭りや行事をみんなでこれからも作り上げる機会をつくり、継続的な関係性をつくっていききたい。 関係性が生まれるような場をつくりたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通機関での移動が難しい方の生活を豊かにしたい。 生活に必要な買い物や移動手段を確保する。 お店で商品を自分で選ぶという楽しさが地域で味わい続けられる。 ボランティアや地域活性化に関心のある学生と連携した経験の機会にもしていきたい。 世代を超えて生きた学びを得られる機会を通じて学校以外の自分の価値に気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> 同窓会が回ってこない人など、地域の情報が入ってこない方々がいる。地域の活動にも参加しにくい。 そのような方々に情報を届けていくことで、自治会に意識を向けるきっかけを生み出す。また子どもたちがそこに自治会に対して親しみを育んでいききたい。 この世代はインターネットやLINEなどのスマホアプリに親しみがあがることから、ネットを活用して届けていくことが重要。
だれに	豊川の人全員（将来的には茨木に広げたい）	地域の多世代（子ども、保護者世代、高齢者）	<ul style="list-style-type: none"> 移動が難しい人（赤ちゃん連れ、高齢者）に向けて移動手段と豊かな買い物体験を。 関わりたい学生にボランティア経験を。 	小中学校の保護者や子ども
どこで	豊川中学校周辺（豊川中学校は、地理的には中心ではないが、豊川フェスタの中心部となるため集まりやすい）	<ul style="list-style-type: none"> 契約田、休耕田を借りる。 学校のグラウンド、公園など広い場所 少人数なら、すでに継続実施している地域の会場などでも開催できるのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> スーパー（アル・ブラザ、平和堂） 	公式LINEやホームページを活用する
いつ	毎年10月後半（軌道に乗れば季節ごとに日程を決める。）	<ul style="list-style-type: none"> 春夏秋冬の季節ごとにイベントを開催。 米などの農作物作りから展開したい。 まずは秋の収穫祭から初めていききたい。 	<ul style="list-style-type: none"> イベントの開催を徐々に増やす形で週に1回から初めて日常的に開催していくことを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ①自治連合会として、全地域に関係のある情報を発信するタイミングと運動 ②小学生3年生が学校の地域探検の授業発表を公式LINEで発信するなど、地域に関連した授業を学校が行うタイミングと運動。
誰と	<ul style="list-style-type: none"> JA、行政（市農林）、PTA、子ども会 市域を超えた（旧豊川地区）人たちと連携 同じ問題を抱える地域の人たちと連携（「新旧、若者、自治会参加」など茨木の他の校区でも同様にかかっている問題についても、対話していくような場を期待） 	<ul style="list-style-type: none"> 都度、必要な団体と協力する実行委員会形式（JA、まちづくり協議会、農業指導者、シニア世代、PTA、保護者、消防団、先生、学校、行政、郵便局、公共施設運営団体、地域の企業など） 	<ul style="list-style-type: none"> 豊川にあるタクシース会社 ボランティアや地域活性化に関心のある高校生や大学生 品ぞろえの良い大きめのスーパー 福祉委員、社会福祉協議会 	<ul style="list-style-type: none"> 授業を実施している小学校 中学生などLINEを使いこなしている世代 公式LINEを運営するのが技術的に難しいような場合は事業者との連携。
どんなことをする	<p>水を大切に自然を守る魅力づくり～水とつながる～</p> <ul style="list-style-type: none"> 農業技術の継承やステップアップのため、市域を超えて農業者同士の収穫アップのノウハウを話し合う場をつくる。 豊川の特産物販売の場づくりを行い、住民同士の交流の場ともする。 豊川は水が豊かな地域でもあることから、季節ごとに「水」をテーマにしたイベントを特産品販売と一緒に展開していくことで住民が地域の魅力を感じることができると。 	<p>①食をテーマにした秋祭りのイベントの開催</p> <p>最初は出来上がっている農作物を使う（もちつき、芋ほり、焼き芋など）出来上がるまでの間を有効活用し、消防団が消防訓練をする。しめなわづくり体験、書初めなど。</p> <p>②地域資源を体験する</p> <p>秋祭りイベントに向けて農作業を体験しつつ農作物づくりに取り組む。</p> <p>③子どもが主役の体制づくり</p> <p>子どもたちが企画し、保護者層、シニア層がサポートするよう参加型の企画体制をつくる。</p>	<p>乗合タクシーで買い物に行くツアーイベントを開催</p> <ul style="list-style-type: none"> 季節行事にあわせて買い物に出かける（冬だと鍋、お正月準備など）。 意欲のある大学生や若者にサポーターとして参加してもらい、参加者の荷物を運んだり会話をする。大学生や若者にはボランティアスキルアップの研修も実施。 高齢者と大学生がお互いに学びや喜びを見出せるような関係性を築きつつ、関係者や参加者を増やして頻度を上げ、日常的な事業にする。 	<p>①自治連合会の公式LINEやホームページを作成</p> <ul style="list-style-type: none"> 小中学生の子育て世代に向けて情報を発信し、地域に関心をもってもらうことで自治会への加入率アップを目指す。 ②小学校の地域探検の授業を発信 保護者世代の関心や注目を集めるだけでなく、次世代となる子どもたちの自治会に対する認識や親しみを深めることを目指す。

地域全体が一体となることや、若い担い手が活躍する環境になるには？

企画概要	水を大切にし自然を守る魅力づくり～水とつながる～
何のためにやるのか	<ul style="list-style-type: none"> ・豊川地区の愛着を高め、新旧の交流（隣接の地域を含む）をより深めるような取り組みを行いたい。 ・地域と人のマッチングに取り組みたい。地域と人のマッチングは、「地域でこれをやりたい」を地域の場でつなげ地域の人を地域に留めておく手法」として取り組みを行っていききたい。
何に（だれに）向けて行うのか	豊川の人全員（将来的には茨木に広げたい）
どこでやるのか	豊川中学校周辺（豊川中学校は、地理的には中心ではないが、豊川フェスタの中心部となるため集まりやすい）
いつ頃の実施が適切か	毎年10月後半（軌道に乗れば季節ごとに日程を決める。）
誰と（どの団体）一緒にやれるといいのか	<ul style="list-style-type: none"> ・JA、行政（市農林）、PTA、子ども会 ・市域を超えた（旧豊川地区）人たちと連携 ・同じ問題を抱える地域の人たちと連携（「新旧、若者、自治会参加」など茨木の他の校区でも同様にかかえている問題についても、対話していくような場を期待）
どんなことをするのか	<p>水を大切にし自然を守る魅力づくり～水とつながる～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業技術の継承やステップアップのため、市域を超えて農業者同士の収穫アップのノウハウを話し合う場をつくる。 ・豊川の特産物販売の場づくりを行い、住民同士の交流の場ともする。 ・豊川は水が豊かな地域でもあることから、季節ごとに「水」をテーマにしたイベントを特産品販売と一緒に展開していくことで住民が地域の魅力を感じることが出来る。

子どもに様々な機会があり、次世代が健やかに育つためには？

企画概要	自然や農業など地域資源を活用した次世代・多世代交流
何のためにやるのか	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源を活用し、次世代と多世代が交流することを通じて地域の魅力を伝えたい。 ・自然環境などを年間を通して活動できる学びの場、つながりの場を創出していきたい。 ・徐々に失われつつある、地域の祭りや行事をみんなでこれからも作り上げる機会をつくり、継続的な関係性をつくっていきたい。 ・関係性が生まれるような場をつくりたい。
何に（だれに）向けて行うのか	地域の多世代（子ども、保護者世代、高齢者）
どこでやるのか	<ul style="list-style-type: none"> ・契約田、休耕田を借りる。 ・学校のグラウンド、公園など広い場所 ・少人数なら、すでに継続実施している地域の会場などでも開催できるのではないか。
いつ頃の実施が適切か	<ul style="list-style-type: none"> ・春夏秋冬の季節ごとにイベントを開催。 ・米などの農作物作りから展開したい。 ・まずは秋の収穫祭から初めていきたい。
誰と（どの団体）一緒にやれるといいのか	<ul style="list-style-type: none"> ・都度、必要な団体と協力する実行委員会形式（JA、まちづくり協議会、農業指導者、シニア世代、PTA、保護者、消防団、先生、学校、行政、郵便局、公共施設運営団体、地域の企業など）
どんなことをするのか	<p>①食をテーマにした秋祭りのイベントの開催 最初は出来上がっている農作物を使う（もちつき、芋ほり、焼き芋など）出来上がるまでの間を有効活用し、消防団が消防訓練をする。しめなわづくり体験、書初めなど。</p> <p>②豊かな自然、地域資源を体験する 秋祭りイベントに向けて農作業を体験しつつ農作物づくりに取り組み。</p> <p>③子どもが主役の体制づくり 子どもたちが企画し、保護者層、シニア層がサポートするような参加型の企画体制をつくる。</p>

年齢を重ねても豊かに豊川で暮らしていくためには？

企画概要	地域で学ぶ学生との連携による移動困難者のためのツアーイベント
何のためにやるのか	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通機関での移動が難しい方の生活を豊かにしたい。 ・生活に必要な買い物や移動手段を確保する。 ・お店で商品を自分で選ぶという楽しさが地域で味わい続けられる。 ・ボランティアや地域活性化に関心のある学生と連携した経験の機会にもしていきたい。 ・世代を超えて生きた学びを得られる機会を通じて学校以外での自分の価値に気づく。
何に（だれに）向けて行うのか	<ul style="list-style-type: none"> ・移動が難しい人（赤ちゃん連れ、高齢者） ・ボランティア経験をしたい学生（高校生、大学生）
どこでやるのか	<ul style="list-style-type: none"> ・スーパー（アル・プラザ、平和堂）
いつ頃の実施が適切か	イベントの開催を徐々に増やす形で週に1回から初めて日常的に開催していくことを目指す。
誰と（どの団体）一緒にやれるといいのか	<ul style="list-style-type: none"> ・豊川にあるタクシー会社 ・ボランティアや地域活性化に関心のある高校生や大学生 ・品ぞろえの良い大きめのスーパー ・福祉委員、社会福祉協議会
どんなことをするのか	<p>乗合タクシードで買い物に行くツアーイベントを開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・季節行事にあわせて買い物に出かける（冬だと鍋、お正月準備など）。 ・意欲のある大学生や若者にサポーターとして参加してもらい、参加者の荷物を運んだり会話をす。大学生や若者にはボランティアスキルの研修も実施。 ・高齢者と大学生がお互いに学びや喜びを見出せるような関係性を築きつつ、関係者や参加者を増やして頻度を上げ、日常的な事業にする。

地域全体が一体となることや、若い担い手が活躍する環境になるには？

<p>企画概要</p>	<p>小学校の授業連携や、地域情報をネットで発信する啓発企画</p>
<p>何のためにやるのか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 閲覧板が回ってこない人など、地域の情報が入ってこない方々がいる。地域の活動にも参加しにくい。 ・ そのような方々に情報を届けていくことで、自治会に意識を向けるきっかけを生み出す。また子どもたちもそこに関わるきっかけを生むことにより、子どもの頃から自治会に対して親しみを育んでいきたい。 ・ この世代はインターネットやLINEなどのスマホアプリに親しみがあることから、ネットを活用して届けていくことが重要。
<p>何に（だれに）向けて行うのか</p>	<p>小中学校の保護者や子ども</p>
<p>どこでやるのか</p>	<p>公式LINEやホームページを活用する</p>
<p>いつ頃の実施が適切か</p>	<ol style="list-style-type: none"> ①自治連合会として、全地域に関係のある情報を発信するタイミングと連動 ②小学生3年生が学校の地域探検の授業発表を公式LINEで発信するなど、地域に関連した授業を学校が行うタイミングと連動。
<p>誰と（どの団体）一緒にやれるといいのか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業を実施している小学校 ・ 中高生などLINEを使いこなしている世代 ・ 公式LINEを運営するのが技術的に難しいような場合は事業者との連携。
<p>どんなことをするのか</p>	<ol style="list-style-type: none"> ①自治連合会の公式LINEやホームページを作成 <ul style="list-style-type: none"> ・ 小中学生の子育て世代に向けて情報を発信し、地域に関心をもってもらうことで自治会への加入率アップを目指す。 ②小学校の地域探検の授業を発信 <ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者世代の関心や注目を集めるだけでなく、次世代となる子どもたちの自治会に対する認識や親しみを深めることを目指す。

ワークショップを終えて～今後の方向性について

①全体を通しての成果

- ・ 講義型の会議ではなく、対話型のアイデア検討の場を体感した。
- ・ 豊川地区の「未来のありたい姿、これまでの課題」を共有することができた。
- ・ ありたい姿や課題像をもとに、これからの豊川地区の4つのテーマを抽出した。
- ・ 抽出テーマを掘り下げ、仮想ではあるものの4つの新規企画を生み出した。

②今後の方向性

- 今回の豊かなアイデアをどう形にしていくか
- ・ 自由な意見交換、立場を超えた方が集う対話の場の地域への落とし込みや、アイデアを行動計画へつなげていく対話を、継続的に実施していくことが望ましい。
- ・ 企画では多くのチームが農業関係者や教育機関との連携について触れていることから、今回のような対話にどう新しい主体に加わってもらうか検討が必要。
- ・ 新しいアイデアを実現させていくためには負担が伴うことから、検討や実施の枠組みを協議会としてどう位置づけていくのか、支援体制などの議論が必要。

参考資料

ワークショップ当日資料等

地域活動の活性化に向けたワークショップ

豊川地区まちづくりワークショップ
～みんなで集まってまちの未来を考える～

まちとしごと総合研究所

地域活動の活性化に向けたワークショップ

ごあいさつ

まちとしごと総合研究所

地域活動の活性化に向けたワークショップ

○地域コミュニティの現状

【背景】

- 少子高齢化に伴う人口減少や人口構造の変化
- 人々の価値観の変化
- ライフスタイルの多様化
- 核家族化、単身世帯や共働き世帯の増加



【現状（課題）】

- 自治会加入率の低下（56.1%）
- 高齢化による担い手不足
- 自治会等の役員就任への負担感
- 地域活動に対する負担感



地域活動の活性化に向けたワークショップ



【影響】

- 自治会等への未加入や脱会
- 防犯、防災、福祉、環境などの自治会機能が縮小

「安全・安心で住みよいまちづくり」

への影響が懸念される。

そこで！！



地域活動の活性化に向けたワークショップ

■ワークショップ対象及び目標

○地域自治組織結成校区

地域コミュニティ基本指針

⇒「地域が主体的に行う取組」の一つである
「協議の場づくり」として実施。

目標「人材の育成、地域活動の活性化」

○地域自治組織未結成校区

地域コミュニティ基本指針

⇒「地域が主体的に行う取組」の一つである
「地域自治組織づくり」として実施。

目標「担い手の充実、活動への参画」



本日のおおよその流れについて

時間	内容
18:00～	ごあいさつ
18:05～	茨木市からの説明、ワークの説明
18:15～	ウォーミングアップ
18:25～	自己紹介、グループワーク
19:35～	全体での共有
19:50～	次回のご案内・閉会挨拶
20:00～20:15	閉会予定 ※話し合いの進捗で前後します

地域活動の活性化に向けたワークショップ

令和3年10月23日（土） 18:00～20:00	■豊川地区の魅力と課題を考えるワークショップ 豊川地区で地域活動をされている皆さんが感じる豊川の魅力や、地域の課題について話し合しましょう。
令和3年11月13日（土） 18:00～20:00	■豊川地区の論点を深めるワークショップ 第1回で話し合われた意見をもとに、テーマごとに分かれてより論点を深めていきましょう。
令和3年12月11日（土） 18:00～20:00	■今後豊川地区でしてみたい取り組みを考えるワークショップ 第1・2回の話し合いをもとに、実際にどんな取り組みをしていくのか。今後に向けての具体的なアイデアを出し合しましょう。

コロナ禍で自治会運営や話し合いが難しい中ではありますが
「次なる豊川の種」を描いていきましょう

地域活動の活性化に向けたワークショップ

ウォーミングアップ
～簡単なミニワーク～

まちとしごと総合研究所

同じグループの方と自己紹介

お手元のA4サイズ用の紙

お名前	所属
豊川地区のいいところは？	

まちの「現状」「未来」のキーワードを考える

豊川地区のいいところ	
<p>ここはウォーミングアップでやりましたが、もっとあればぜひ！</p>	<p>豊川地区がもっとこうなってほしい</p>
<p>現状</p>	<p>未来</p>
<p>豊川地区のまちで気になること</p>	<p>豊川地区がこうなったら嫌だな・・・</p>

まちの「現状」「未来」のキーワードを考える

豊川地区のいいところ

ここはウォーミングアップでやりましたが、もっとあればぜひ！

-----現状-----

豊川地区のまちで
気になること

【豊川地区の今】

「まちのよい様子」

「まちの困りごと」

「まだできていないこと」

【連想のヒント】

子ども、高齢者は？現役世代は？

まちの担い手は？

現在の行事や取り組みの運営は？

まちの交流の様子は？

まちづくりの負担は？

現在の組織体制は？

コロナ禍等、災害での運営は？

まちの「現状」「未来」のキーワードを考える

【豊川地区の未来】

「地区のよりよい姿」

「なってほしくない未来」

【連想のヒント】

子ども、高齢者は？現役世代は？

どんな人がまちを担っている？

どんな取り組みが行われている？

今の◎◎は残っていてほしい？

まちの雰囲気はどうなった？

組織体制はどうなった？

コロナ禍を経てどうなる？

豊川地区がもっと
こうなってほしい

-----未来-----

豊川地区が
こうなったら
嫌だな・・・

地域活動の活性化に向けたワークショップ

よりよい話し合いをするために ファシリテーターという役割



中立な立場でみなさんが話しやすい環境を整えます

地域活動の活性化に向けたワークショップ

よりよい話し合いのためのお願い

- ① さまざまな意見がでることを歓迎 (文脈は置いておく)
それは違う! → その発想はなかったな
- ② 誰かのお話に乗っかっての一言歓迎
*違う意見を言わなければならない?
- ③ 自分の話は簡潔にサクサクと!
- ④ 今日の話はここだけ (肩書を忘れる)
*あの意見よかったからやってよ

中立な立場でみなさんが話しやすい環境を整えます

次回 第2回のお知らせ

豊川地区の論点を深めるワークショップ

今回のワークショップで話し合われた意見を整理し、いくつかのテーマに取りまとめます。それをもとにテーマごとに分かれてより論点を深めていきましょう。

令和3年11月13日（土） 18:00～20:00

豊川いのち・愛・ゆめセンター

地域活動の活性化に向けたワークショップ

豊川地区まちづくりワークショップ
～みんなで集まってまちの未来を考える～

【第2回】

まちとしごと総合研究所

地域活動の活性化に向けたワークショップ

ごあいさつ

地域活動の活性化に向けたワークショップ

令和3年10月23日（土） 18:00～20:00	■豊川地区の魅力と課題を考えるワークショップ 豊川地区で地域活動をされている皆さんが感じる豊川の魅力や、地域の課題について話し合しましょう。
令和3年11月13日（土） 18:00～20:00	■豊川地区の論点を深めるワークショップ 第1回で話し合われた意見をもとに、テーマごとに分かれてより論点を深めていきましょう。
令和3年12月11日（土） 18:00～20:00	■今後豊川地区でしてみたい取り組みを考えるワークショップ 第1・2回の話し合いをもとに、実際にどんな取り組みをしていくのか。今後に向けての具体的なアイデアを出し合しましょう。

コロナ禍で自治会運営や話し合いが難しい中ではありますが
「次なる豊川の種」を描いていきましょう

本日のおおよその流れについて

時間	内容
18:00～	ごあいさつ
18:05～	ワークの説明
18:15～	ウォーミングアップ
18:25～	自己紹介、グループワーク
19:35～	全体での共有
19:50～	次回のご案内・閉会挨拶
20:00～20:15	閉会予定 ※話し合いの進捗で前後します

まちの「現状」「未来」のキーワードを考える

豊川地区のいいところ

ここはウォーミングアップでやりましたが、もっとあればぜひ！

現状

豊川地区のまちで
気になること

豊川地区がもっと
こうなってほしい

未来

豊川地区が
こうなったら
嫌だな・・・

まちの「現状」「未来」のキーワードを考える

	A	B	C	D
現在 ○	<ul style="list-style-type: none"> ・人が親切、やさしい（よい意味でおせっかい、人情、責任感） ・自然豊か（川、田んぼ、のどかな風景、サギが羽を休める風景） ・歴史がある（西国街道、椿の本陣、川端康成） ・高齢者や障がいを持つ方の居場所がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・人のつながり（おおらか、協力的） ・相談できる（相談窓口が多い、集会所が多い） ・自然が豊か（緑が多い、夜は静か） ・見守り体制がある（民生委員が震災時に活躍） ・子どもの感受性が豊か 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然が豊か（勝尾寺川、田んぼが多い、山林の季節感がある） ・近所づきあい（みんな知り合い、他人に親切、安全で平和） ・歴史がある（西国街道、椿の本陣、川端康成） 	<ul style="list-style-type: none"> ・人のつながりがある（人を助ける気持ち、親身になってくれる） ・自然が豊か（様々な動物をみる、山や緑が多い） ・車さえあれば買い物、アクセスは便利 ・相談できる場所が多い（愛センター、ふわふわのおうち、コミセン、消防団） ・豊川小中学校は手厚く教えてくれる
未来 ○	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが増えていくまち（子どもの居場所、地域への愛着） ・高齢者が元気なまち（高齢者の居場所） ・買い物、交通の利便性があるまち（買い物支援、巡回バス） ・若手世代の活躍が進むまち（18歳以上の参加、自治への参加） ・自然を大切にすまち（自然とふれあうイベント） 	<ul style="list-style-type: none"> ・関わりの深いまち（優しさ、あいさつ、思いやり、お互い様） ・お年寄りが死ぬまで暮らせるまち（買い物などの利便性、循環バスなどの交通手段） ・子どもがのびのび遊んでいるまち（学校で子どもがのびのびできる、遊べる場所が増える） ・各世代が活躍できるまち（役員をしたらおもしろい、若手のリーダーが育っている、門戸を開く） 	<ul style="list-style-type: none"> ・新旧地域の一体感や相互理解があるまち（地区全体がまとまる、お互いをもっと理解する、勝尾寺川を通じた交流） ・子どもが多いまちになって、みんなでイベントがしたい ・まちづくり協議会に新地域も旧地域ももっと参画、関与して欲しい→共通の目標をつくっていきたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・多世代がバランスよく共存するまち ・子育て世代が集まるまち ・福祉バスが走り、病院に行きやすいまち
現在 ×	<ul style="list-style-type: none"> ・川に入れなくなった（生活排水、農業など） ・少子・高齢化（子どもの数が減っている、独居老人の問題） ・買い物、移動が不便（商店が少ない、市役所が遠い） ・地域のつながりが薄れている ・自治の運営に課題がある（役員のなり手不足、役員任せ） ・コロナによる自治への影響（行事の中止、会議の減少） 	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物、通院が不便（車がないと移動が不便） ・自治運営が困難に（担い手の固定化、加入率の減少） ・行事のマンネリ化（求められるものへの変化） ・子育ての悩み（子育て世帯が忙しい、地域内で働く場がない） ・子どもの場（放課後に遊ぶ場がない、駄菓子屋がない） ・30～50代の活躍の話が不足している 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の生活の不安（高齢者の1人暮らし、買い物） ・関係性が希薄になっている（旧地域と新地域のつながり、旧地域とマンションとのつながり、顔見知りから一歩踏み込む関係性） ・地域が一体となる祭りなどの行事がない ・まちの生活環境の問題（川や道が汚い、暗い、空き地、歩道がない） 	<ul style="list-style-type: none"> ・逆に車がなければ不便が多い（バスの本数が少ない、道が狭い） ・子育て世代が少ない（子どもの習い事の増加、子ども会が解散している） ・つながれていない人たちもいる（軽く参加できる仕組みが無い） ・自治会員の減少（ゆるやかな世代交代ができていない、中間の世代が少ない）
未来 ×	<ul style="list-style-type: none"> ・人口が減っていく（子どもが減る、空き家が増える） ・関わりが減る（人のつながりが減る、集まりが減る、役員が減る） ・まちづくりへの意欲が減る（新しい取り組みに反対する、自己中心） ・安心して暮らせる環境では無くなる 	<ul style="list-style-type: none"> ・人のつながりのない（他人事で済ませてしまふ、姥捨山のような雰囲気） ・お年寄りが「早く死にたい」と言う ・無機質なまち（無計画な発展） 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係性が希薄（つながりがないまち、住民がますます減っていく、となり同士の嫌な感情だけが残るのではないかと、連帯感と愛着を失う） ・活動の衰退（いろいろな会議に出席する人は同じ、古い慣習が残って新しいものが入ってこない、空き家が増える、ゴーストタウン） 	<ul style="list-style-type: none"> ・治安が悪い ・空き家が多い ・過疎化していく ・山が近いため災害が増える

まちの「現状」「未来」のキーワードを考える

豊川地区のいいところ

- ・ **ご近所付き合いがある**
(人情がある、協力的な方が多い)
- ・ **自然が豊か**
(昔は川に入って遊べた、田畑が豊か、季節感がある)
- ・ **歴史的な魅力がある**
(椿の本陣、西国街道、川端康成など)
- ・ **相談できる場所が多くて安心**
(愛センター、ふわふわのおうち、コミセンなど)

- ・ **地域全体としての一体感に課題がある**
(新旧住民のつながり、地域一体となる祭りや行事のあり方)
- ・ **自然とどのように付き合っていくのか**
(田畑や自然とふれあう機会を増やす、災害への対応)
- ・ **これからの自治運営のあり方改善**
(加入率、担い手の固定化、若い世代の参加や仕組み)
- ・ **高齢者が抱える不安**
(高齢者の孤独化、車が無いと不便、商店が少ない)
- ・ **子どもが健やかに育つ環境**
(子ども会の解散、遊び場や居場所が少ない、駄菓子屋)

豊川地区の気になるところ

豊川地区がこうなってほしい

- ・ **人とのつながりを大事にするまち**
(関わりが深い、あいさつができる関係を生み出す)
- ・ **自然を感じながら過ごせるまち**
(自然に触れ合う機会がある)
- ・ **若い世代の活躍が増えるまち**
(30～50代が活躍する、気軽に参加できる仕組みがある)
- ・ **高齢者が元気に過ごせるまち**
(年齢を重ねても暮らしやすい)
- ・ **子どもが元気に過ごせるまち**
(居場所や遊び場が豊富、地域への愛着を持ってくれる)

- ・ **人との関係性の希薄化**
(つながりがない、連帯感がない、愛着がない、他人事になる)
- ・ **まちをよくする活動が衰退している**
(役員・会議の参加者が固定化、新しい取り組みに反対する)
- ・ **安心して暮らせない環境になる**
(治安の悪化、空き家の増加)

豊川地区がこうなったら嫌だ

前回の資料をチェック

まずは配布資料を眺めてもらって…

- ・ ここはやっぱり課題だな、自分もそう思うということ
- ・ 書かれていないけど、こういうことも課題なのではないか？
- ・ こう書かれているけど根本はここが問題なんだ…

など **思いが湧いたところにアンダーラインをひいて**

チェックをしてください！

前回ワークから見えてきた豊川の4つのテーマ

地域全体が一体となることや、若い担い手が活躍する環境になるには？

豊川の魅力的な自然環境を、未来につなげていくためには？

年齢を重ねても（その他の困り）豊かに豊川で暮らしていくためには？

子どもに様々な機会があり、次世代が健やかに育つためには？

本日のワークシート

そのテーマにおいて
どんな課題があるのか
(前回の意見も踏まえて)

その課題はなぜ起きるのか
(原因)

課題と原因を解決するために
どんな取り組み（しかけ）が考えられるか

地域活動の活性化に向けたワークショップ

よりよい話し合いをするために ファシリテーターという役割



中立な立場でみなさんが話しやすい環境を整えます

地域活動の活性化に向けたワークショップ

よりよい話し合いのためのお願い

- ① さまざまな意見がでることを歓迎
それは違う！ → その発想はなかったな
- ② 誰かのお話に乗っかっての一言歓迎
*違う意見を言わなければならない？
- ③ 自分の話は簡潔にサクサクと！
- ④ 今日の話はここだけ (肩書を忘れる)
*あの意見よかったからやってよ

今後豊川地区でしてみたい取り組みを 考えるワークショップ

第1・2回の話し合いをもとに、実際にどんな取り組みをしていくのか。今後に向けての具体的なアイデアを出し合いましょう。

令和3年12月11日（土）18:00～20:00

豊川いのち・愛・ゆめセンター

地域活動の活性化に向けたワークショップ

豊川地区まちづくりワークショップ
～みんなで集まってまちの未来を考える～

【第3回】

まちとしごと総合研究所

地域活動の活性化に向けたワークショップ

ごあいさつ

地域活動の活性化に向けたワークショップ

令和3年10月23日（土） 18:00～20:00	■豊川地区の魅力と課題を考えるワークショップ 豊川地区で地域活動をされている皆さんが感じる豊川の魅力や、地域の課題について話し合しましょう。
令和3年11月13日（土） 18:00～20:00	■豊川地区の論点を深めるワークショップ 第1回で話し合われた意見をもとに、テーマごとに分かれてより論点を深めていきましょう。
令和3年12月11日（土） 18:00～20:00	■今後豊川地区でしてみたい取り組みを考えるワークショップ 第1・2回の話し合いをもとに、実際にどんな取り組みをしていくのか。今後に向けての具体的なアイデアを出し合しましょう。

コロナ禍で自治会運営や話し合いが難しい中ではありますが
「次なる豊川の種」を描いていきましょう

本日のおおよその流れについて

時間	内容
18:00～	ごあいさつ
18:05～	ワークの説明
18:15～	自己紹介、ウォーミングアップ
18:30～	グループワーク
19:40～	全体での共有
19:55～	閉会挨拶
20:00～20:15	閉会予定 ※話し合いの進捗で前後します

前回ワークから見えてきた豊川の4つのテーマ

地域全体が一体となることや、若い担い手が活躍する環境になるには？

豊川の魅力的な自然環境を、未来につなげていくためには？

年齢を重ねても（その他の困り）豊かに豊川で暮らしていくためには？

子どもに様々な機会があり、次世代が健やかに育つためには？

本日のワークシート

そのテーマにおいて
どんな課題や現状があるのか
（前回の意見も踏まえて）

EX) 買い物が不便

その課題はなぜ起きるのか
何が問題なのか
（原因）

EX) 買い物体験ができないことが問題

課題と原因を解決するために
どんな取り組み（しかけ）が考えられるか

EX) 移動スーパーに来てもらう →地域で朝市を開こう

前回の各グループ意見のとりまとめ

	地域全体が一体となることや、若い担い手が活躍する環境になるには？	子どもに様々な機会があり、次世代が健やかに育つためには？	年齢を重ねても豊かに豊川で暮らしていくためには？	地域全体が一体となることや、若い担い手が活躍する環境になるには？
課題・現状	<p>コロナで行事が減少している</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナでイベントが中止になった ・高層や豊フェスが中止になった ・地域の運動会中止になった ・村祭りも難しくなっている ・祭りで食べ歩きができない <p>若い世代が減少している</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若い世代が地域外に住む ・子供の数が少ない ・地域内に仕事がない ・高齢世帯が増えている <p>一体的になりにくい地形環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域が細長く、端から端が遠い ・他の地域の様子がわかりにくい ・集落の距離が離れている ・地域ごとに課題や優先順位が違う <p>自治会の運営が困難（地域による）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ人が何年も役員をしている ・役員の高齢化が進んでいる ・次の役員が中々決まらない ・活動が役員に集中している <p>地域の産業の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業の担い手がいらない ・農業を訓練できる施設がない ・道の駅のような販売場がない 	<p>若い世代との交流が少ない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会いさつをする実質性がなくなった ・子供の数の減少 ・大学生、高校生との交流 ・中学生と地域の交わりの減少 <p>多世代交流が少ない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供と大人の交流ができる場 ・楽しく過ごす大人の存在が見えない ・レクリエーションが地区ごと開催 <p>子どもに様々な機会をつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活躍の場や体験の場が少ない ・子どもが自分で企画運営ができる ・チャンスがない ・魚釣り体験ができるような場がない ・お祭りが無くなって体験できない <p>子どもがのびのび遊べる環境がない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊学路の整備 ・地域の見守りを活発に ・安全な遊び場をもっと必要 ・ボール遊びができる広場や公園 <p>地域への愛着を育む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の歴史を知る ・古地図のままの道をたどる <p>子どものライフスタイルの変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・習い事などで自由な時間が少ない ・子供たちの外での交流が少ない 	<p>高齢者のケアを家族でやりきることが難しい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが遠くに住んでいて関係が悪いケース ・夫婦の力が深まらないケース ・家族が遠くに住んでいて面倒を見てもらえない ・施設に入らず子どもも面倒をみない ・認知症の方が増えている、家族の介護負担が大きい <p>居場所へのアクセスの問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミセンまでいけない ・歩いていける場所に介護予防教室がない ・高齢者が集まる場所がない ・小さい居場所でも近くにあって欲しい ・居場所が必要な人が居場所に来れない <p>暮らしのアクセスの問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者にとって買い物や送迎時の交通が不便 ・田舎まで出ればなんとかなるが、バスが4・5本 ・買い物に行く時間とバスが合わない ・とくし丸 <p>現役世代から高齢者へ移る際の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康不安 ・現役時代から抜けられない意識 ・会社で仕事をしてきた気持ちが抜けていない 	<p>住居場所が少ない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住める場所 ・地元に住んでもらう <p>若い世代が地域活動に参加する経路がない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青年団の育成が必要ではないか ・地域活動に参加するメリットがわかりにくい ・マンションの人が自治会に参加しない ・日々の生活で活動できる余裕がない <p>地域活動が見えにくいので参加しにくい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治会活動の内容がわかりにくい ・自治会の活動量がわかりにくい <p>地域での交流が不足している</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知り合いが少ない ・コロナで祭り、交流がない ・人が集う場がない（おふる、スーパー、病院）
	原因・問題	<p>行事の減少</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響 <p>若い世代が減少している</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若い世代が地域に関わる余裕がない ・核家族化が進み、子育てで精一杯な若い世代が多い ・地域や近隣の付き合いが「煩わしい」と感じる人の増加 ・定年年齢も上がり、仕事をしているので子どものサポートができない ・世代交代できていない ・旧コミュニティに新しい方が参加しにくいような雰囲気がある ・若い世代の声が反映しにくい <p>自治会の運営が困難（地域による）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定年年齢も上がり、仕事をしているので、地域活動に参加できない ・若い人が役員をできる仕組みになっていない ・次世代への継承への仕組みがない <p>地域が一体になりにくい地形環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域が細長く、端から端が遠い ・集落の距離が離れている <p>地域の産業の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業を訓練できる施設がない ・道の駅のような販売場がない 	<p>つながりが減り交流体験が少ない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つながりや交流が減った ・知らない人を警戒する風潮 ・コミュニケーション不足 <p>人との関係性を体験する機会が少ない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人主義やプライバシーの尊重 ・地域の世話焼きな方が減った ・「お互い様」の気持ちが薄れている ・多世代交流の機会が少ない ・核家族化で高齢者に会う機会が少ない <p>自治会参加する気持ちが育っていない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・責任を取りたくない風潮 ・役員が同じでやり手が少ない ・納得で考えがちなになっている ・お祭りを第一に考える世代 <p>地域で汗をかき事が伝わっていない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・忙しすぎて人に興味がない ・知っている大人が減った ・文化を伝える人が減った ・親世代が年長の話を聞かない 	<p>家庭の状況が安定しないと人のために行動しにくい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭が安定しないとまちづくりには行けない ・自身で年配の世帯が増えている <p>高齢者に情報が届いていない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療者や福祉に関する情報を知らない ・甲身で年配の世帯が増えている <p>居場所がマンネリ化してしまう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いつもの仲間ばかりになってしまふ ・集落のししか来れない雰囲気がある <p>生活エリアに居場所がない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多世代交流センターがない ・空き施設が活用できない <p>人と会ふ、話す機会をつくりにくい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で会えない ・誰かと話したいが、話をする相手が近くにいない ・遠慮で友人の家に行けない ・話がしたくてもプライバシーもありできない <p>高齢者になる準備準備、多世代交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現役世代から年齢を重ねることに慣れる ・生活習慣としての教育、シニア前教育 ・お年寄りのことを見ていない

地域全体が一体となることや、若い担い手が活躍する環境になるには？

どんな課題や現状があるのか	その課題はなぜ起きるのか／何が問題なのか	課題と原因を解決するためにどんなしなげが考えられる
<p>行事の減少</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で地域行事（盆踊り、豊フェス、地区運動会）が中止となった ・村祭りも実施が困難 ・祭りで食べ歩きができない 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響 	<p>コロナ対応をとりながらの行事再開</p>
<p>若い世代の減少</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若い世代が地域外に住居する ・子どもの数が少ない ・地域内に仕事がない ・高齢世帯の増加 	<ul style="list-style-type: none"> ・若い世代が地域に関わる余裕がない ・核家族化が進み、子育てで精一杯な若い世代が多い ・地域や近隣の付き合いが「煩わしい」と感じる人の増加 ・定年年齢も上がり、仕事をしているので、子どものサポートができない ・世代交代できていない ・旧コミュニティに新しい方が参加しにくいような雰囲気がある ・若い世代の声が反映しにくい 	<ul style="list-style-type: none"> ・世代を超えた交流の場を作り継承していく仕組みづくり（子育てイベント、子育てカフェ） ・新旧コミュニティの垣根をなくし、世代交代を行う ・仕事をしながらでも、老若男女問わず役員ができる仕組みづくり ・自治会や地域活動を継承できるマニュアルづくり
<p>自治会の運営が困難（地域にもよるが）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ人が何年も役員をしている ・役員の高齢化が進んでいる ・活動が役員に集中している ・次の役員がなかなか決まらない 	<ul style="list-style-type: none"> ・定年年齢も上がり、仕事をしているので、地域活動に参画できない ・若い人が役員をできる仕組みになっていない ・次世代への継承への仕組みがない 	
<p>一体的になりにくい地形環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の地域の様子がわかりにくい ・地域ごとに課題や優先順位が違う 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域が細長く、端から端が遠い ・集落の距離が離れている 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域同士、住民どうしが繋がれることのメリットをもっと感じられる機会の創出
<p>地域産業の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業の担い手がいらない ・農産物を気軽に販売できない 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業を訓練できる施設がない ・道の駅のような販売場がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・豊川産農産物 ・事業所と連携し、販売場所を創設

子どもに様々な機会があり、次世代が健やかに育つためには？

どんな課題や現状があるのか	その課題はなぜ起きるのか／何が問題なのか	課題と原因を解決するためにはどんなしなげが考えられる
多世代交流が少ない ・挨拶をする関係性が無くなった ・子どもの数の減少 ・中高生と地域の関わり減少 ・子供と大人の交流できる場が少ない ・楽しく過ごす大人の存在が見えない ・レクリエーションを地区ごとに開催しており、交流がない	・つながりが減り交流する機会が少ない ・知らない人を警戒する風潮 ・コミュニケーション不足 ・個人主義やプライバシーの尊重 ・地域の世話焼きをする人が少なくなった ・「お互い様」の気持ちが薄れている ・多世代交流の機会が少ない ・核家族化で身近に高齢者がいない	・近隣の大学や高校に地域活動への協力依頼を行う ・地域の人がいつでもいける場所をつくる ・多世代交流や行事の創設 ・集いの場に、高齢者と子どもと一緒に過ごせる時間をつくる
子どもに様々な機会がない ・活躍の場や体験の場が少ない ・子どもが自分で企画運営できるチャンスがない ・魚釣り体験ができるような場がない ・お祭りが無くなって体験できない	・子どものライフスタイルの変化 ・習い事などで余暇の時間が少ない ・子どもたちの外での交流が少ない 地域行事 ・コロナ禍で中止となっている ・マンネリ化している 遊び場の環境 ・ボール遊びができる広場や公園が少ない ・河川の遊び場が整備されていない	・子どもたちが地域の課題を考える場（意見を聴いてみる場）をつくる ・子どもに遊びを教える（将棋、手芸）ための場所をつくる ・ジュニアリーダー、シニアリーダーの創設 ・川を美しく整備して遊歩道を作る ・街灯や防犯カメラの設置
子どもがのびのび遊べる環境がない ・通学路の整備 ・地域の見守り活動が活発でない ・安全な遊び場が必要	役員が同じでなり手が少ない ・責任をとりたくない ・損得で考えがちになっている ・お金を第一に考える世代 ・忙しすぎて興味がない ・文化を伝える人が減った ・地域行事の成立ちや地域の歴史を知っている大人が減った ・親世代が年配の話を聞かない	・古地図のままの道をたどる地域を知るフィールドワーク ・地域全体での祭などの愛着をつくる新規事業の実施
地域への愛着を育む ・自治参加する気持ちが育っていない ・地域で汗をかく楽しさが伝わっていない ・地域の歴史を知る機会がない		

年齢を重ねても豊かに豊川で暮らしていくためには？

どんな課題や現状があるのか	その課題はなぜ起きるのか／何が問題なのか	課題と原因を解決するためにはどんなしなげが考えられる
高齢者のケアの問題 ・家族が遠くに住んでいて面倒を見れない ・認知症の方が増えており、家族の介護負担が大きい ・高齢者が健康を維持するために集える場所がない ・老々介護 ・誰かと楽しく話をしたいが、話ができる相手が近くにいない	・シニア世代になる準備が出来ていない ・現役世代から意識が変わっていない ・子どもが豊川から出ていってしまい、面倒を見る人がいない ・コロナ禍で人と会えない ・医療や福祉に関する情報が、必要な人に届いていない ・核家族化によりお年寄りのことを見ていない	・健康体操などのイベントを開催する（新しい人が参加しやすいように、これまでとは違うグループを作る。）
アクセスや交通の問題 ・高齢者にとって買い物や通院時の交通が不便 ・コミセンまでいけない ・歩いて行ける場所に介護予防教室がない ・身近な集いの場がない ・居場所が必要な人が居場所まで来れない	・生活エリアに必要な施設がない ・買い物に行く時間とバスが合わない ・バスの本数が少ない ・集落が点在している豊川の地域特性	・より身近な場所に、小さな集いの場を設ける ・とくし丸（移動スーパー）をもっと利用しやすくする（時間や場所を見直す） ・会場までの送り迎えのバスを走らせる ・乗り合いタクシーを走らせる

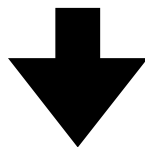
地域全体が一体となることや、若い担い手が活躍する環境になるには？

どんな課題や現状があるのか	その課題はなぜ起きるのか／何が問題なのか	課題と原因を解決するためにはどんなしなげが考えられる
若い世代の地域活動への参加が少ない ・マンション住民が自治会に入らない ・地域活動の若い担い手がない ・青年団に入る若い人がいない	・日々の生活で手いっぱい、地域活動に参加する余裕がない ・知り合いが少なく、地域活動に参加しにくい（参加するきっかけがない） ・地域活動に参加するメリットがよくわからない ・若い人がどんなことに魅力を感じるかを、運営側がわかっていない ・マンションのオーナーが地域活動に協力的でない ・結婚していない人は参加しにくい ・毎回参加できないといきづらくなる ・周りに入っていない人が多いと入りづらい ・つながりの大切さが伝わっていない ・どれくらい活動しているか（活動量）が分からない	・青年団を育成する ・若者が参加しやすいように現在の地域組織の活動を見直す ・自治会への加入促進を積極的に行う ・マンションオーナーと協議し、マンションへも自治会加入促進を行う ・単身世帯も参加したくなるイベントを考える ・新旧コミュニティの垣根をなくし、世代交代を行う ・仕事しながらでも、老若男女問わず役員ができる仕組みづくり ・自治会や地域活動を継承できるマニュアルづくり
そもそも地域に若い世代が少ない ・住む場所自体が少ない ・豊川で育った人が、外に出て行ってしまふ ・マンションの人がすぐに転居してしまう	・少子高齢化 ・市営住宅の家賃変動（収入が多ければ高くなる） ・都市への仕事の集中 ・病院、スーパーなどが無い	
地域の交流が少ない ・コロナで行事が無くなり、地域の交流がない ・人が集う場（お風呂、スーパーなど）がなく、顔を合わせる機会がない ・病院がない ・災害時に助け合える環境を作る必要がある	・コロナの影響 ・集落が点在している豊川の地域特性 ・生活エリアに必要な施設がない	・地域の集いの場を創出する ・みんなが参加できるイベントを考える ・世代を超えた交流の場を作り継承していく仕組みづくり（子育てイベント、子育てカフェ）

今回のワークショップ 最後の目標

これまで考えてきた課題・原因

例えば「こんな取り組み」



「もしも」まちづくり協議会
新規事業開発チームだったら…
と思いながら企画にしてみる

前回の課題や原因から取り組みを考える

イベントの実施や、仕組み、サービスを考えてみる

何のためにやるのか

何に（だれに）向けて行うのか

どこでやるのか

いつ頃の実施が適切か

誰と（どの団体）一緒にやれるといいのか

どんなことをするのか

前回の課題や原因から取り組みを考える

イベントの実施や、仕組み、サービスを考えてみる（例）

子どもたちの地域愛着を高めるために

〇〇児童館の子どもたちを対象に

△△さんの農園

秋頃

PTA、体育振興会、△△さん、JA

稲刈り体験、終了後 地元の〇〇を具材にした
おにぎりをつくって食べるイベントの開催

同じグループの方と自己紹介

お手元のA4サイズ用の紙

お名前	好きな 食べ物
豊川の思い出の場所	

地域活動の活性化に向けたワークショップ

よりよい話し合いをするために ファシリテーターという役割



中立な立場でみなさんが話しやすい環境を整えます

よりよい話し合いのためのお願い

① さまざまな意見がでることを歓迎

それは違う！ → その発想はなかったな

② 誰かのお話に乗っかっての一言歓迎

~~＊違う意見を言わなければならない？~~

③ 自分の話は簡潔にサクサクと！

④ 今日の話はここだけ（肩書を忘れる）

~~＊あの意見よかったからやってよ~~

